

平成24年度
草津市のまちづくりについての
市民意識調査結果報告書

平成25年3月
草津市

目 次

1. 調査概要	1
2. 調査結果	2
(1) 回答者属性	2
① 性別	
② 年齢	
③ 居住年数	
④ 転入歴	
⑤ 居住地	
(2) 基本方針別にみる満足度評価	5
① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針	
② 「安心」が得られるまちをつくるための基本方針	
③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針	
④ 「活気」があふれるまちをつくるための基本方針・行財政マネジメント	
(3) 基本方針別にみる重要度評価	9
① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針	
② 「安心」が得られるまちをつくるための基本方針	
③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針	
④ 「活気」があふれるまちをつくるための基本方針・行財政マネジメント	
(4) 基本方針別にみる満足度と重要度	13
① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針	
② 「安心」が得られるまちをつくるための基本方針	
③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針	
④ 「活気」があふれるまちをつくるための基本方針	
⑤ 行財政マネジメントのための基本方針	
(5) まちの住み心地や日常の生活行動	15
① 住環境評価	
② 定住意向	
③ 日常の行動	
(6) 草津市のイメージ	20
① 都市イメージ	
② 地域資源	

1. 調査概要

【調査目的】

平成22年度から平成32年度を計画期間とする第5次草津市総合計画の確実な進捗管理を行っていくため、計画期間中の各年度末での市民の意向を把握することを目的とする。

【調査対象者】

市民 3,000 人

【選定方法】

住民基本台帳の18歳以上の者から、年齢、居住地域の2段階による層化無作為抽出とした。

【抽出条件】

抽出基準日： 平成25年1月10日

【調査方法】

調査は無記名とし、平成25年1月22日（火）から1月31日（木）を調査期間として、郵送により実施した。

【回収状況】

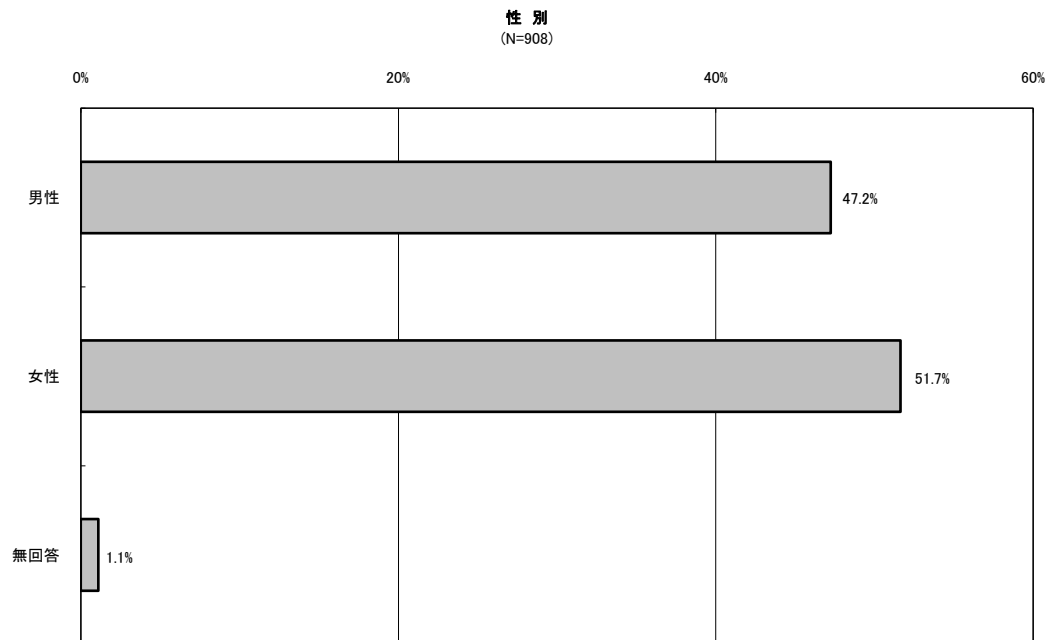
有効回答数 908 件、有効回答率 30.3%を得た。

2. 調査結果

(1) 回答者属性

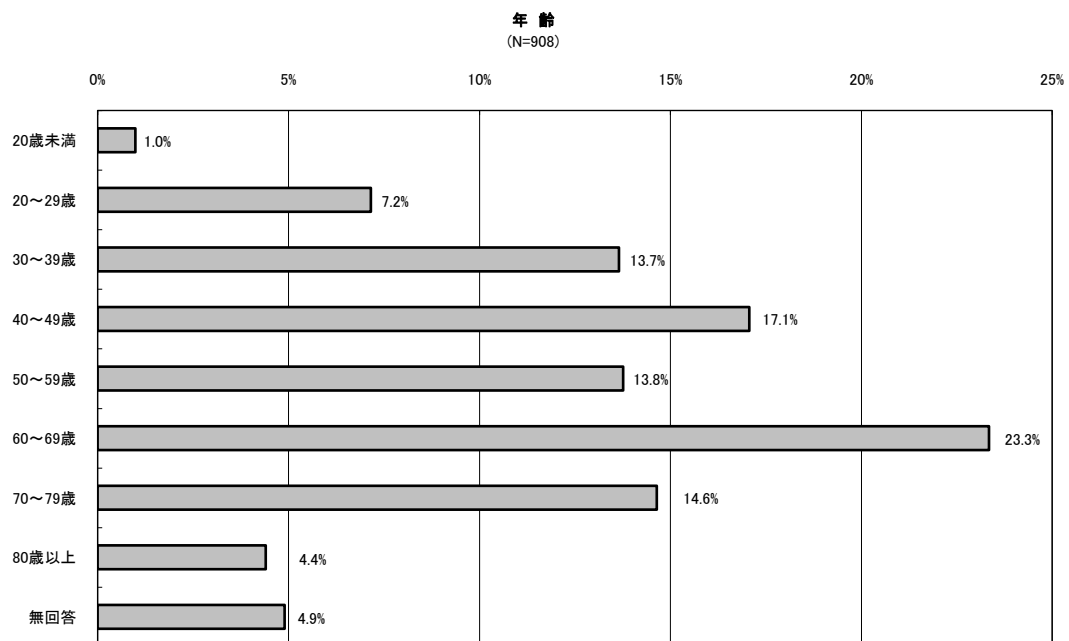
① 性別

「男性」が47.2%、「女性」が51.7%となっている。



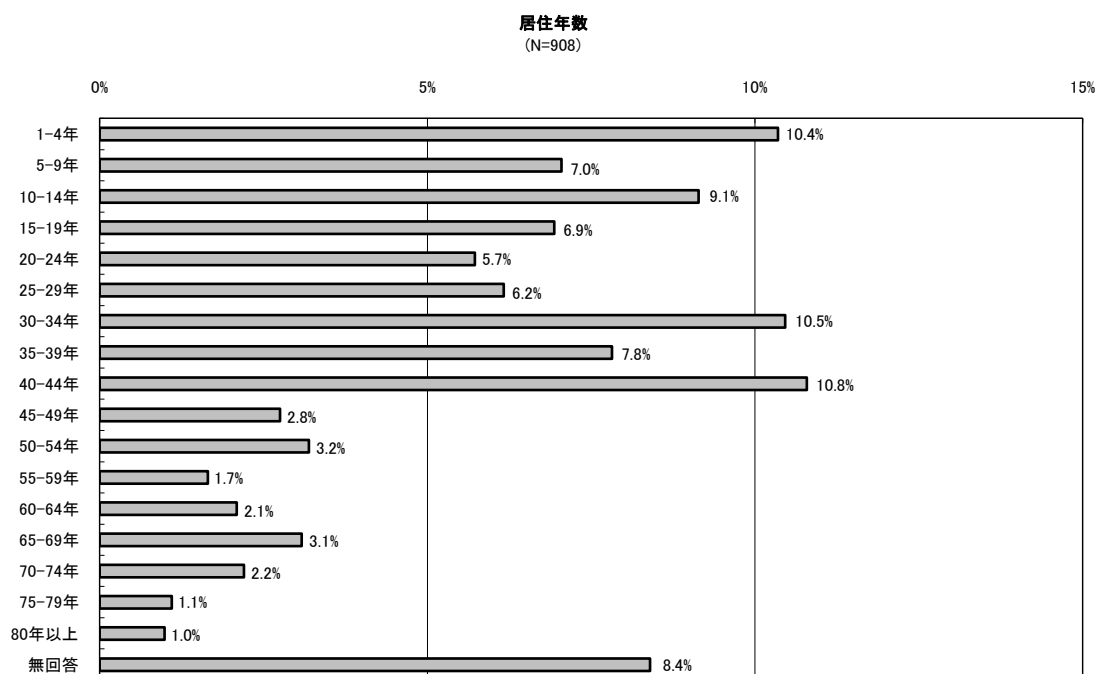
② 年齢

「60-69歳」が最も多く23.3%、次いで「40-49歳」が17.1%、「70-79歳」が14.6%となっている。



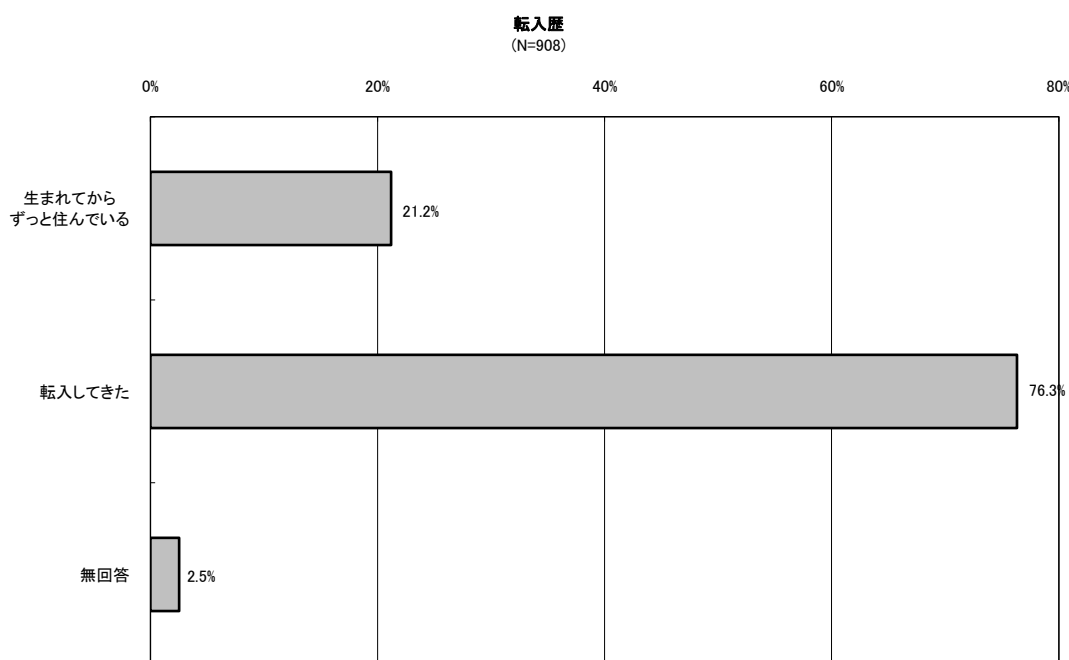
③ 居住年数

「40-44年」が最も多く10.8%、次いで「30-34年」が10.5%、「1-4年」が10.4%となっている。



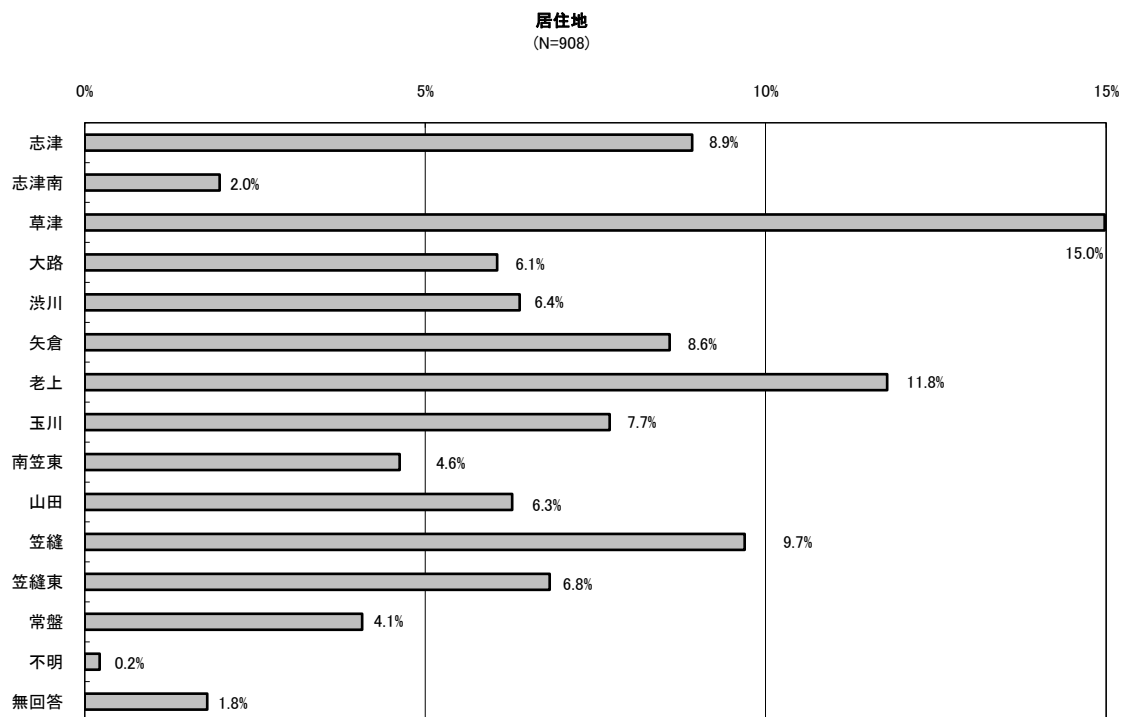
④ 転入歴

「生まれてからずっと住んでいる」が21.2%、「転入してきた」が76.3%となっている。



⑤ 居住地

「草津」が最も多く15.0%、次いで「老上」が11.8%、「笠縫」が9.7%、「志津」が8.9%などとなっている。



(2) 基本方針別にみる満足度評価

① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針

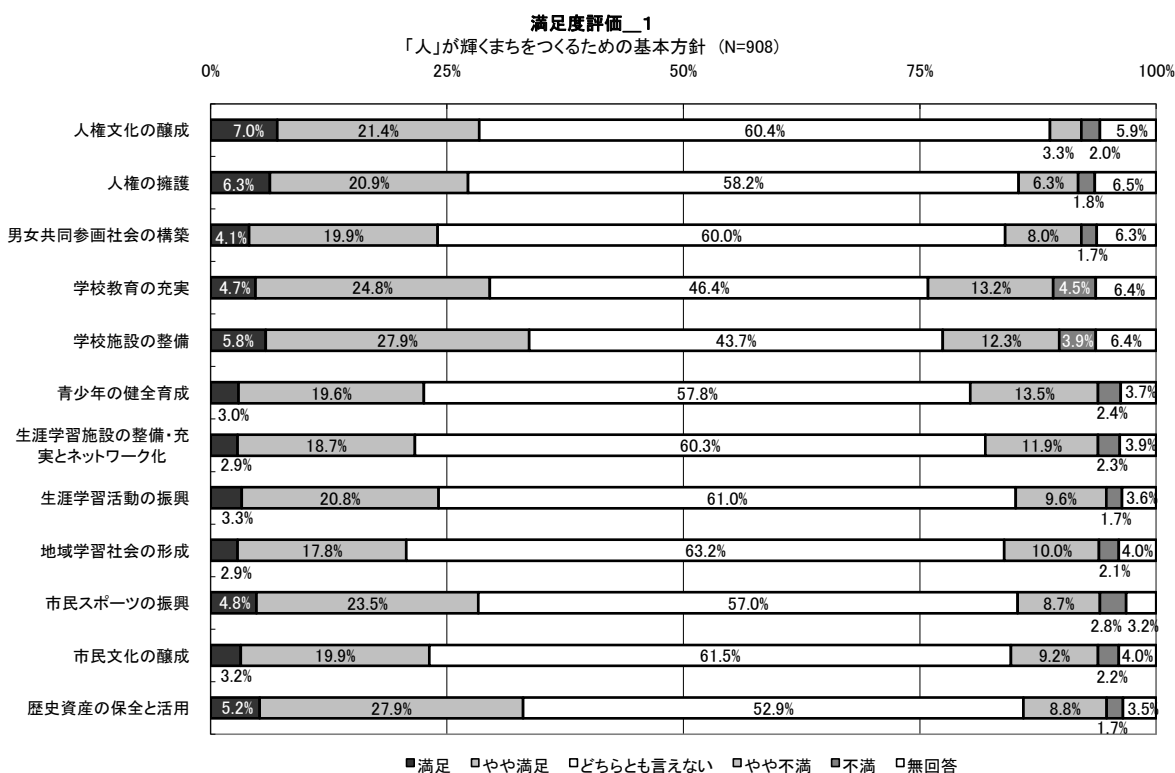
「満足」が最も多いのは、「人権文化の醸成」で7.0%、次いで「人権の擁護」が6.3%となっている。

「やや満足」が最も多いのは、「学校施設の整備」と「歴史資産の保全と活用」で27.9%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは、「地域学習社会の形成」で63.2%、次いで「市民文化の醸成」が61.5%となっている。

「やや不満」が最も多いのは、「青少年の健全育成」で13.5%、次いで「学校教育の充実」が13.2%となっている。

「不満」が最も多いのは、「学校教育の充実」で4.5%、次いで「学校施設の整備」が3.9%となっている。



②「安心」が得られるまちをつくるための基本方針

「満足」が最も多いのは、「治水対策」で5.5%、次いで「母子保健等の充実」が5.1%となっている。

「やや満足」が最も多いのは、「市民の健康づくり」で26.2%、次いで「医療保険制度等の適正運用」で21.4%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは、「障害のある人の社会参加の促進」で66.9%、次いで「生活安定への支援」で64.2%となっている。

「やや不満」が最も多いのは、「犯罪のないまちづくり」で23.0%、次いで「あんしんできる高齢期の生活への支援」で21.4%となっている。

「不満」が最も多いのは、「犯罪のないまちづくり」で6.8%、次いで「あんしんできる高齢期の生活への支援」と「生活安定への支援」が5.7%となっている。



③ 「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針

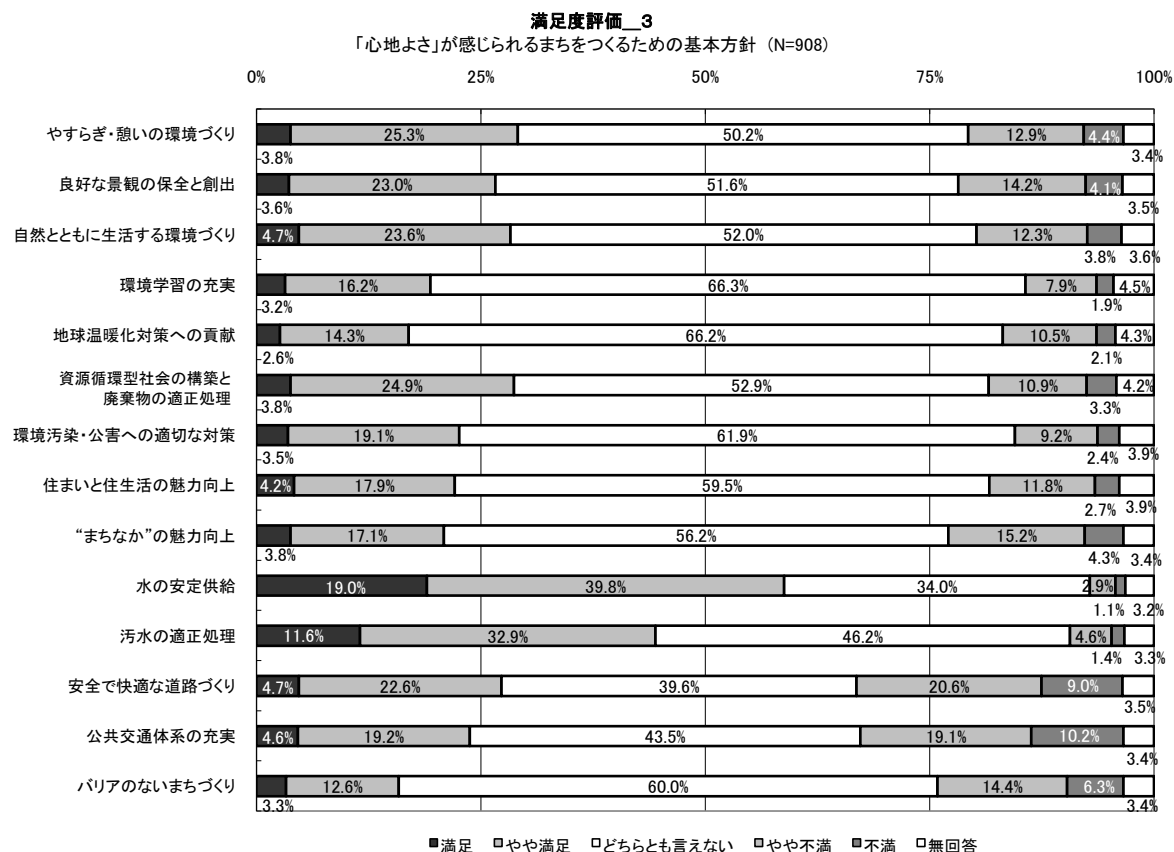
「満足」で最も多いのは「水の安定供給」で 19.0%、次いで「汚水の適正処理」で 11.6%となっている。

「やや満足」で最も多いのは「水の安定供給」で 39.8%、次いで「汚水の適正処理」で 32.9%となっている。

「どちらとも言えない」で最も多いのは「環境学習の充実」で 66.3%、次いで「地球温暖化対策への貢献」で 66.2%となっている。

「やや不満」で最も多いのは「安全で快適な道路づくり」で 20.6%、次いで「公共交通体系の充実」が 19.1%となっている。

「不満」で最も多いのは「公共交通体系の充実」で 10.2%、次いで「安全で快適な道路づくり」で 9.0%となっている。



④「活気」があふれるまちをつくるための基本方針

「満足」が最も多いのは、「大学などを生かしたまちづくりの展開」で 3.8%、次いで「農業の振興」で 3.6%となっている。

「やや満足」が最も多いのは、「大学などを生かしたまちづくりの展開」で 23.1%、次いで「商業の振興」で 17.2%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは、「水産業等の振興」で 73.7%、次いで「多様な交流活動の展開」で 71.5%となっている。

「やや不満」で最も多いのは、「観光の振興」で 15.2%、次いで「商業の振興」で 10.7%となっている。

「不満」で最も多いのは、「観光の振興」で 4.5%、次いで「まちづくり情報の提供の充実」で 2.9%となっている。

【行財政マネジメント】

「市民から信頼される市政運営」において、「どちらとも言えない」が最も多く 57.6%、次いで「やや満足」が 16.2%となっている。

「行財政資源の有効活用」において、「どちらとも言えない」が最も多く 60.9%、次いで「やや不満」が 13.1%となっている。



(3) 基本方針別にみる重要度評価

① 「人」が輝くまちをつくるための基本方針

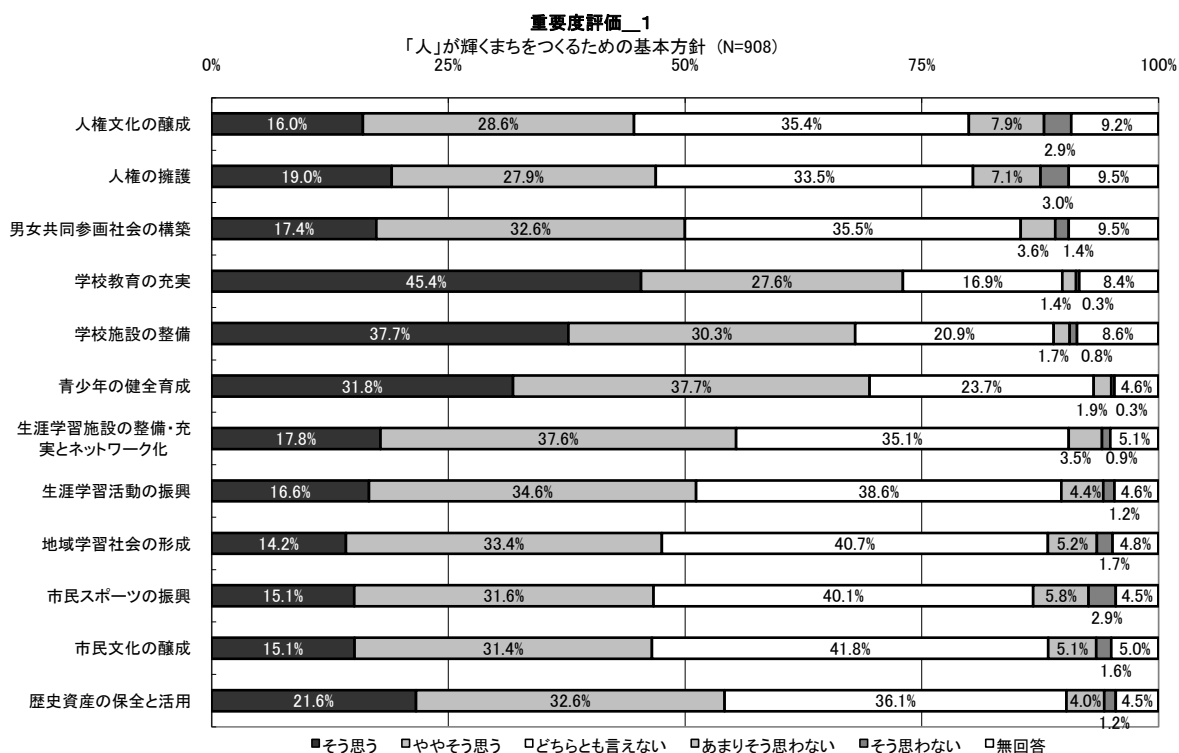
「そう思う」が最も多いのは「学校教育の充実」で 45.4%、次いで「学校施設の整備」で 37.7%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「青少年の健全育成」で 37.7%、次いで「生涯学習施設の整備・充実とネットワーク化」で 37.6%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「市民文化の醸成」で 41.8%、次いで「地域学習社会の形成」で 40.7%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「人権文化の醸成」で 7.9%、次いで「人権の擁護」で 7.1%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「人権の擁護」で 3.0%、次いで「人権文化の醸成」と「市民スポーツの振興」が 2.9%となっている。



②「安心」が得られるまちをつくるための基本方針

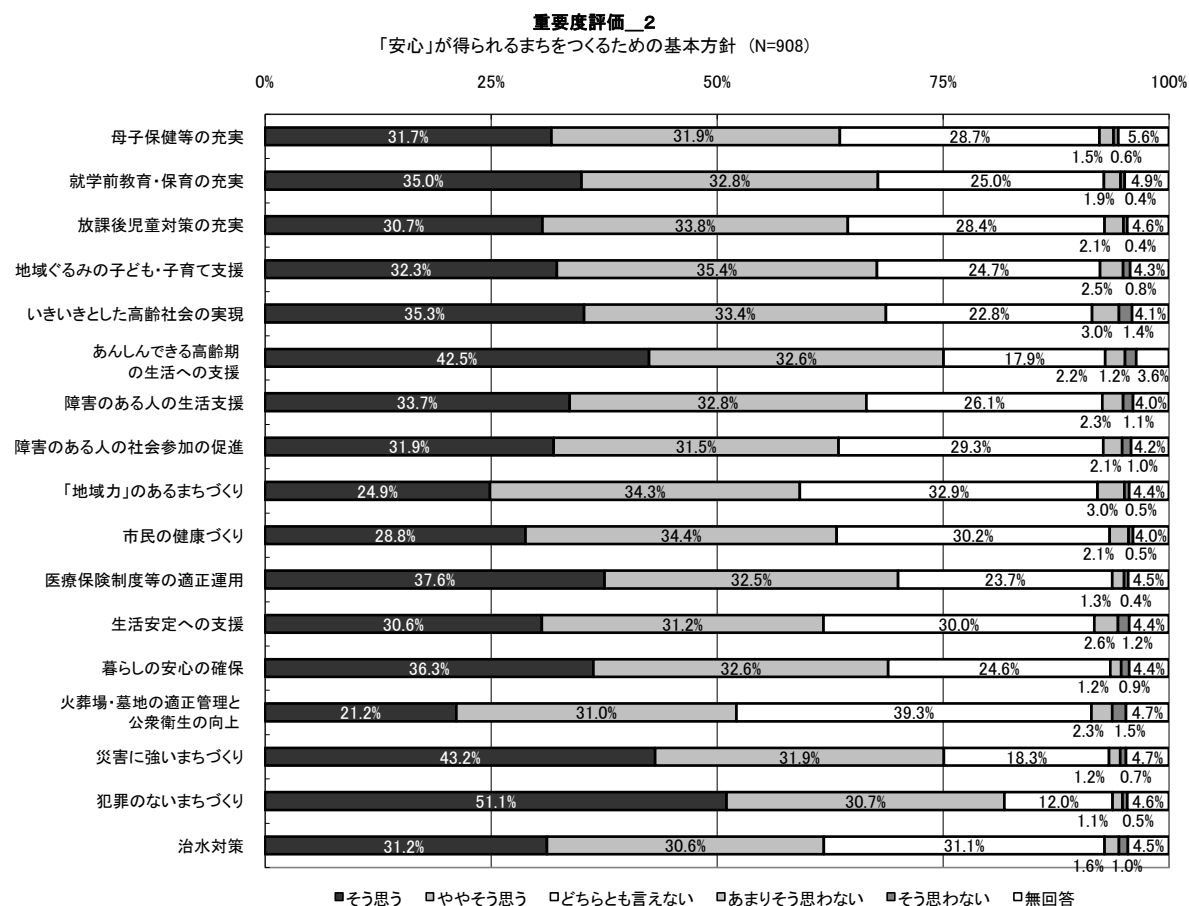
「そう思う」が最も多いのは「犯罪のないまちづくり」で 51.1%、次いで「災害に強いまちづくり」で 43.2%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「地域ぐるみの子ども・子育て支援」で 35.4%、次いで「市民の健康づくり」で 34.4%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「火葬場・墓地の適正管理と公衆衛生の向上」で 39.3%、次いで「『地域力』のあるまちづくり」で 32.9%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「いきいきとした高齢社会の実現」と「『地域力』のあるまちづくり」で 3.0%、次いで「生活安定への支援」で 2.6%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「火葬場・墓地の適正管理と公衆衛生の向上」で 1.5%、次いで「いきいきとした高齢社会の実現」で 1.4%となっている。



③「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針

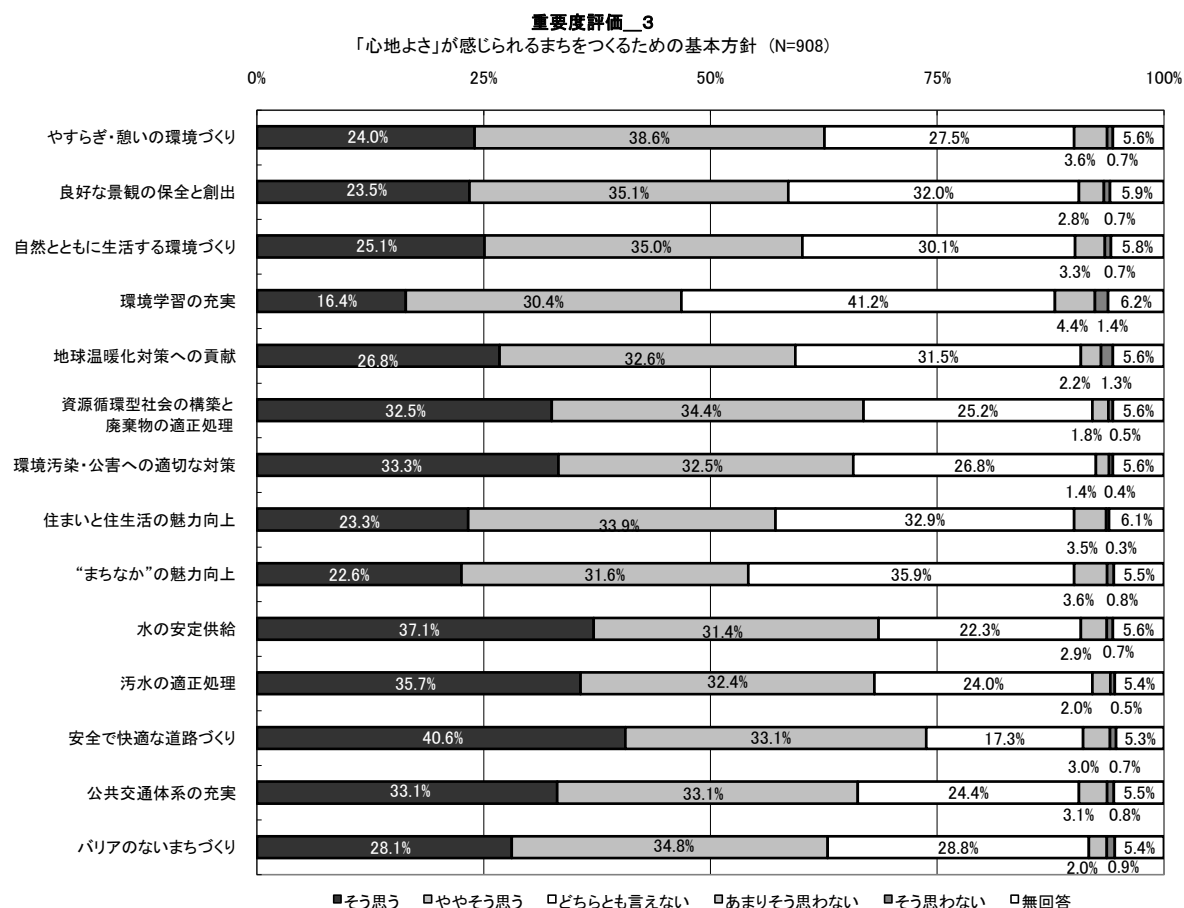
「そう思う」が最も多いのは「安全で快適な道路づくり」で40.6%、次いで「水の安定供給」が37.1%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「やすらぎ・憩いの環境づくり」で38.6%、次いで「良好な景観の保全と創出」で35.1%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「環境学習の充実」で41.2%、次いで「“まちなか”の魅力向上」で35.9%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「環境学習の充実」で4.4%、次いで「やすらぎ・憩いの環境づくり」と「“まちなか”の魅力向上」で3.6%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「環境学習の充実」で1.4%、次いで「地球温暖化対策への貢献」で1.3%となっている。



④「活気」があふれるまちをつくるための基本方針

「そう思う」が最も多いのは「観光の振興」で23.2%、次いで「商業の振興」で21.9%となっている。

「ややそう思う」が最も多いのは「大学などを生かしたまちづくりの展開」で35.4%、次いで「商業の振興」で33.0%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「水産業等の振興」で47.0%、次いで「工業の振興」で44.0%となっている。

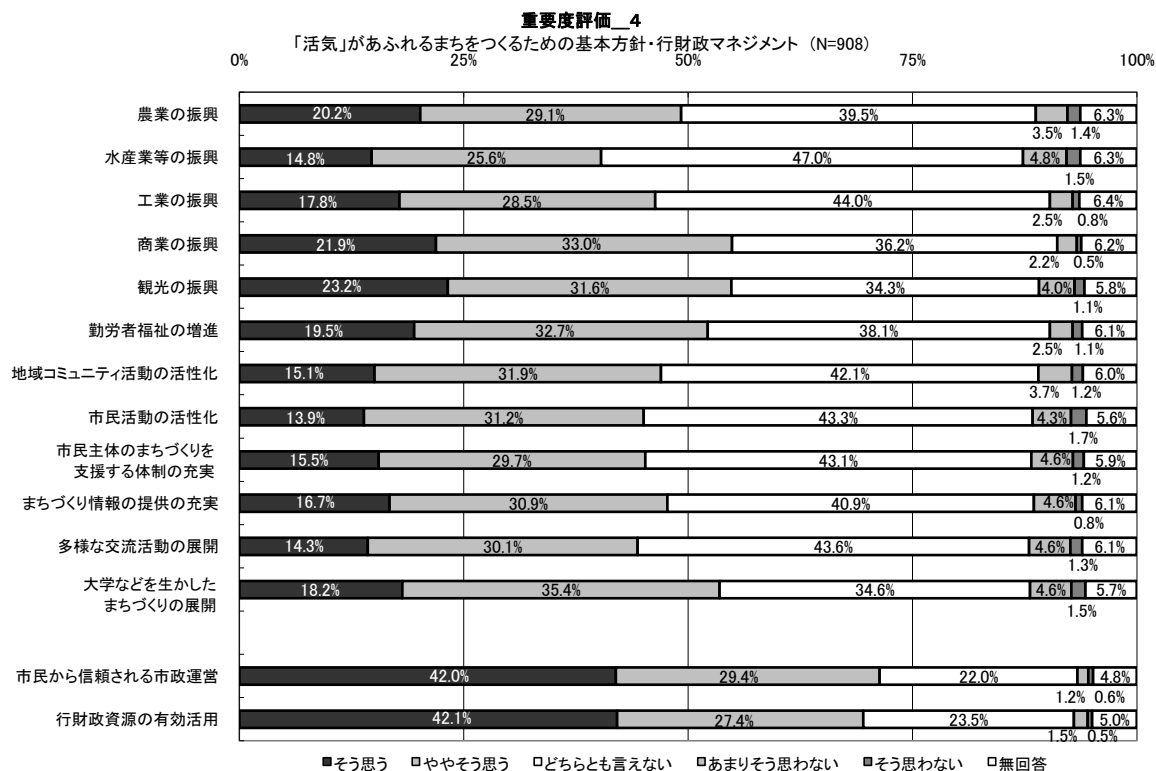
「あまりそう思わない」が最も多いのは「水産業等の振興」で4.8%、次いで「市民主体のまちづくりを支援する体制の充実」「まちづくり情報の提供の充実」「多様な交流活動の展開」「大学などを生かしたまちづくりの展開」で4.6%となっている。

「そう思わない」が最も多いのは「市民活動の活性化」で1.7%、次いで「水産業等の振興」「大学などを生かしたまちづくりの展開」で1.5%となっている。

【行財政マネジメント】

「市民から信頼される市政運営」において、「そう思う」が最も多く42.0%、次いで「ややそう思う」が29.4%となっている。

「行財政資源の有効活用」において、「そう思う」が最も多く42.1%、次いで「ややそう思う」が27.4%となっている。



(4) 基本方針別にみる満足度と重要度

①「人」が輝くまちをつくるための基本方針

「学校教育の充実」「青少年の健全育成」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

「人権文化の醸成」「人権の擁護」においては「満足度が高く、重要度が低く」なっている。

②「安心」が得られるまちをつくるための基本方針

「犯罪のないまちづくり」「あんしんできる高齢期の生活への支援」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

「母子保健等の充実」「市民の健康づくり」において「満足度が高く、重要度が低く」なっている。

③「心地よさ」が感じられるまちをつくるための基本方針

「安全で快適な道路づくり」「公共交通体系の充実」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

「環境学習の充実」において「満足度が高く、重要度が低く」なっている。

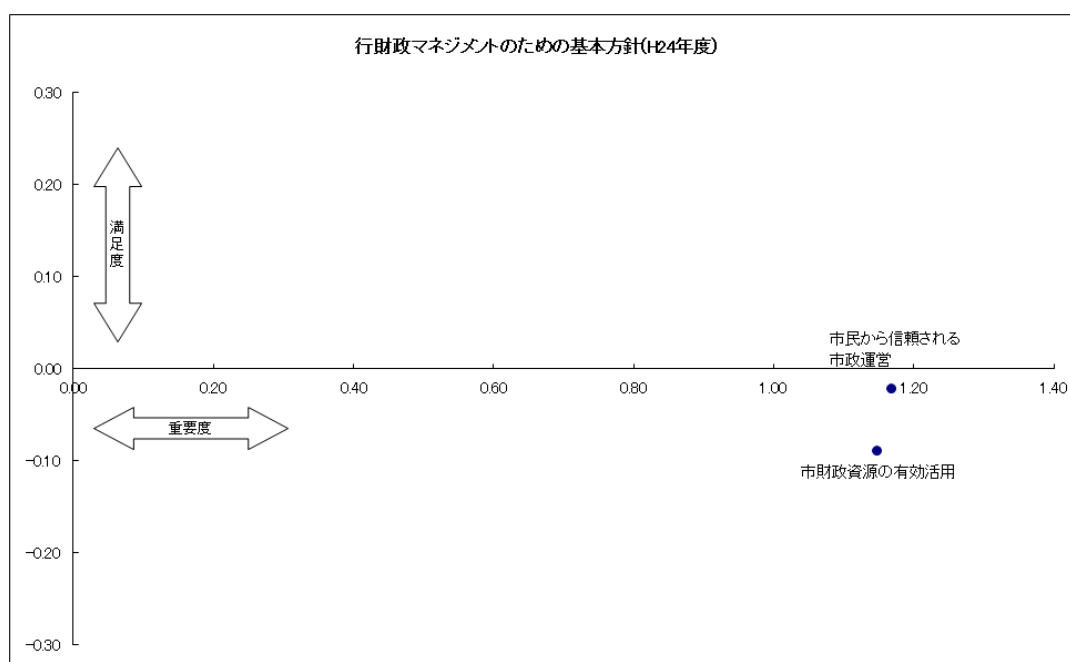
④「活気」があふれるまちをつくるための基本方針

「観光の振興」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。

「市民活動の活性化」において「満足度が高く、重要度が低く」なっている。

⑤「行財政マネジメントのための基本方針」

「行財政資源の有効活用」において「重要度が高く、満足度が低く」なっている。



(5) まちの住み心地や日常の生活行動

① 住環境評価

「そう思う」が最も多いのは「買物をする環境が整っている」で 21.9%、次いで「通勤・通学に便利である」で 15.2%となっている。

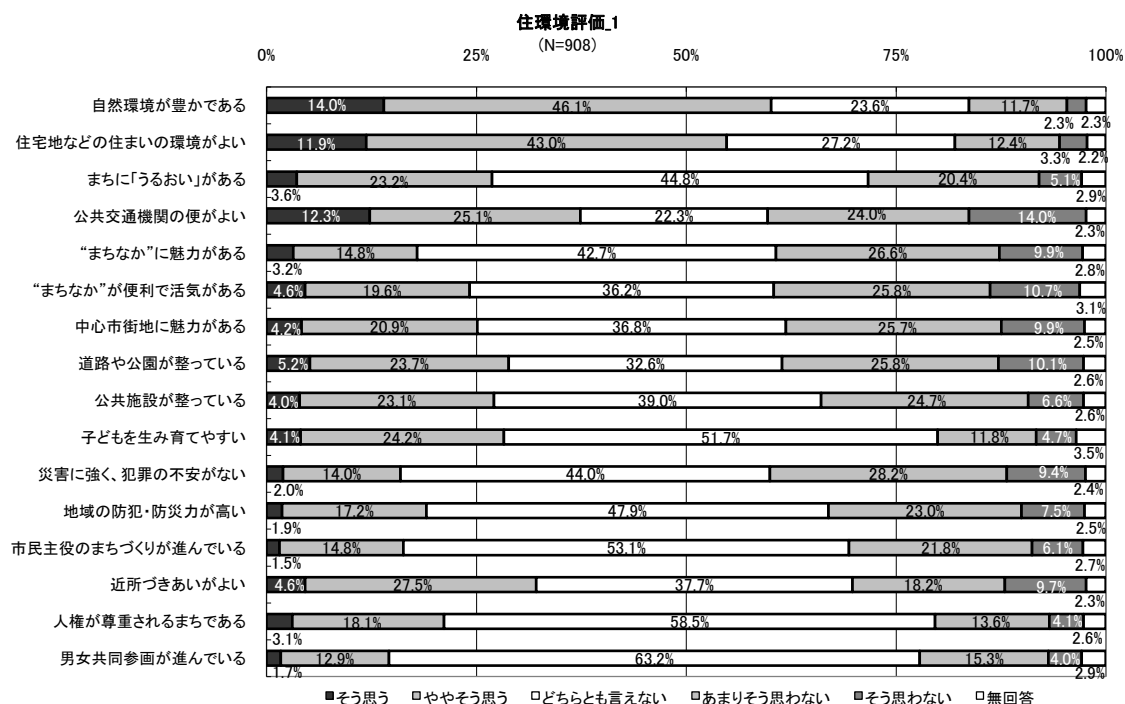
「ややそう思う」が最も多いのは「総合的に住みやすいまちである」で 50.3%、次いで「買物をする環境が整っている」で 48.5%となっている。

「どちらとも言えない」が最も多いのは「男女共同参画が進んでいる」で 63.2%、次いで「人権が尊重されるまちである」で 58.5%となっている。

「あまりそう思わない」が最も多いのは「災害に強く、犯罪の不安がない」で 28.2%、次いで「まちに誇れるもの（ブランド）がある」で 27.1%となっている。

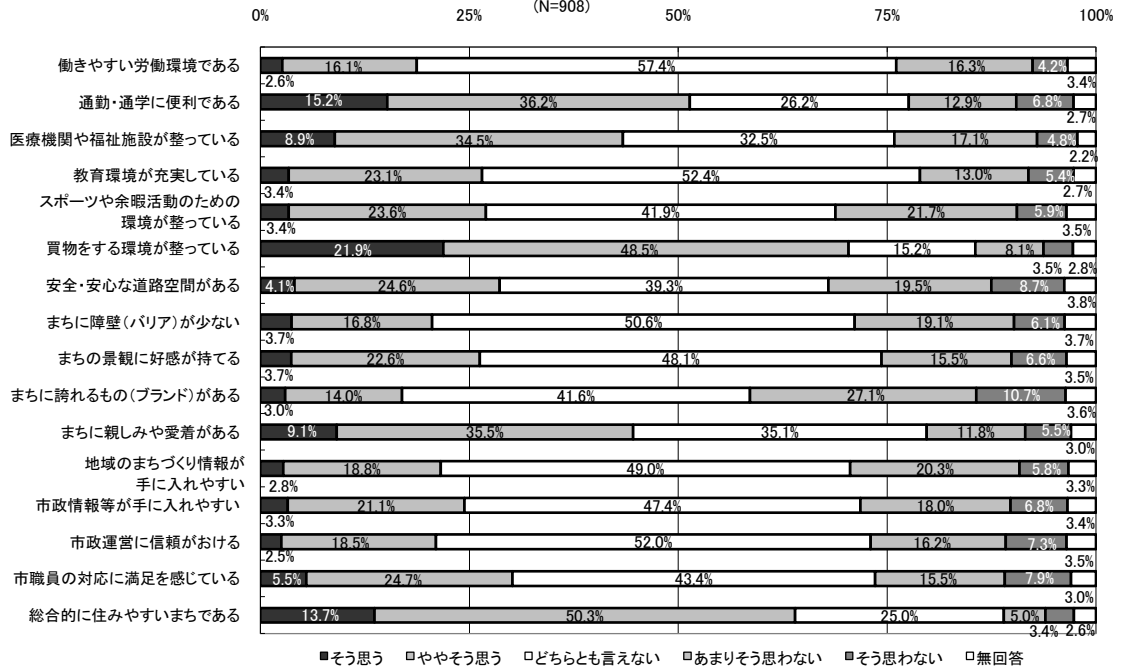
「そう思わない」が最も多いのは「公共交通機関の便がよい」で 14.0%、次いで「“まちなか”が便利で活気がある」「まちに誇れるもの（ブランド）がある」で 10.7%となっている。

「総合的に住みやすいまちである」についてみると、「ややそう思う」が 50.3%と最も多く、次いで、「どちらとも言えない」が 25.0%、「そう思う」が 13.7%となっている。



住環境評価2

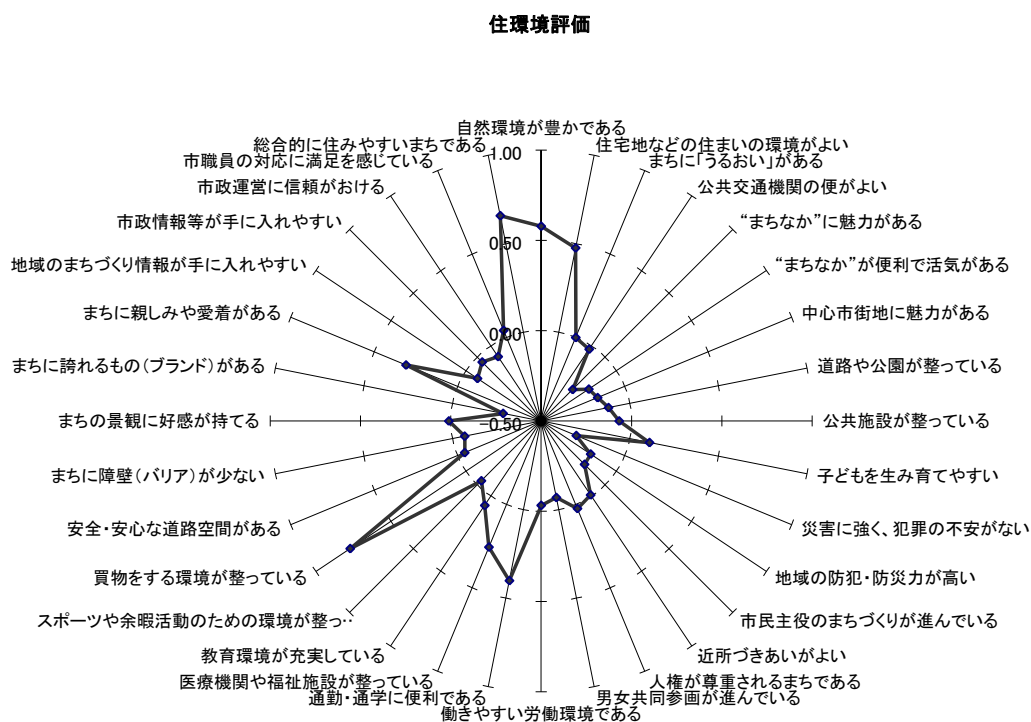
(N=908)



【加重平均】

「買物をする環境が整っている」「総合的に住みやすいまちである」「自然環境が豊かである」「住宅地などの住まいの環境がよい」において評価が高くなっている。

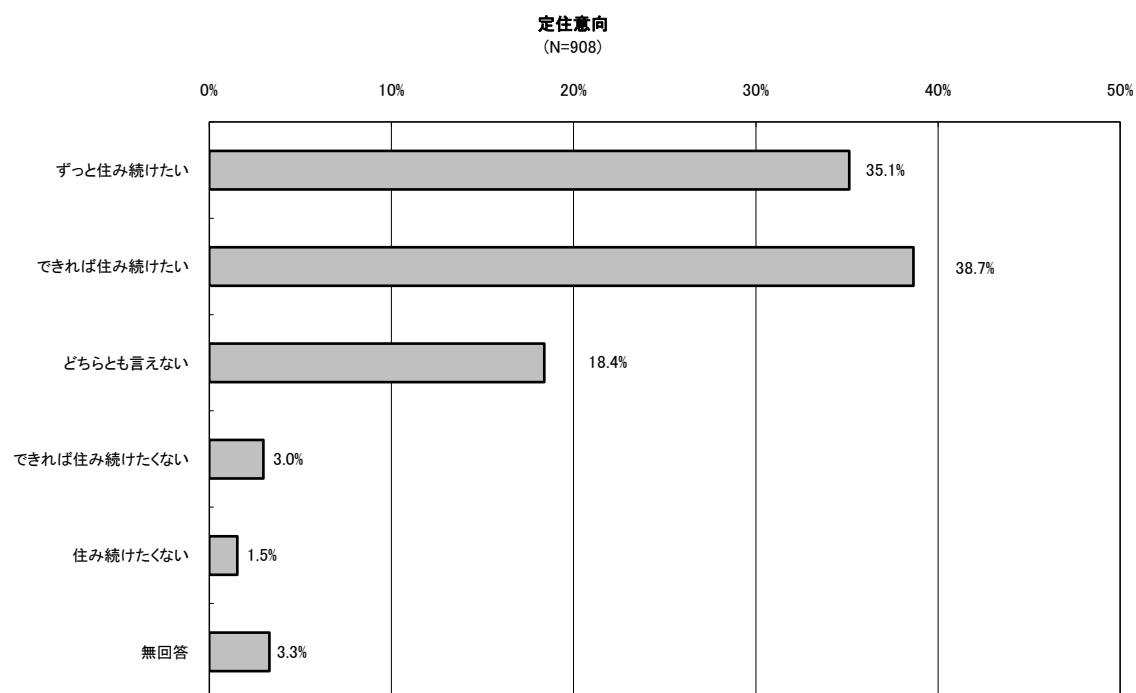
「まちに誇れるもの（ブランド）がある」「災害に強く、犯罪の不安がない」「“まちなか”に魅力がある」においては評価が低くなっている。



「そう思う」を2ポイント、「ややそう思う」を1ポイント、「どちらとも言えない」・無回答を0ポイント、「あまりそうは思わない」を-1ポイント、「そうは思わない」を-2ポイントとして全体の平均値を算出

②定住意向

「できれば住み続けたい」が最も多く 38.7%、次いで「ずっと住み続けたい」が 35.1%となっている。



③ 日常の行動

「地元の農作物を購入するよう心掛けている」では、「ややそう思う」が最も多く 34.9%、次いで「どちらとも言えない」が 25.5%となっている。

「地元の水産物を購入するよう心掛けている」では、「どちらとも言えない」が最も多く 39.2%、次いで「ややそう思う」が 20.9%となっている。

「地球温暖化対策に取り組んでいる」では、「ややそう思う」が最も多く 41.2%、次いで「どちらとも言えない」が 34.9%となっている。

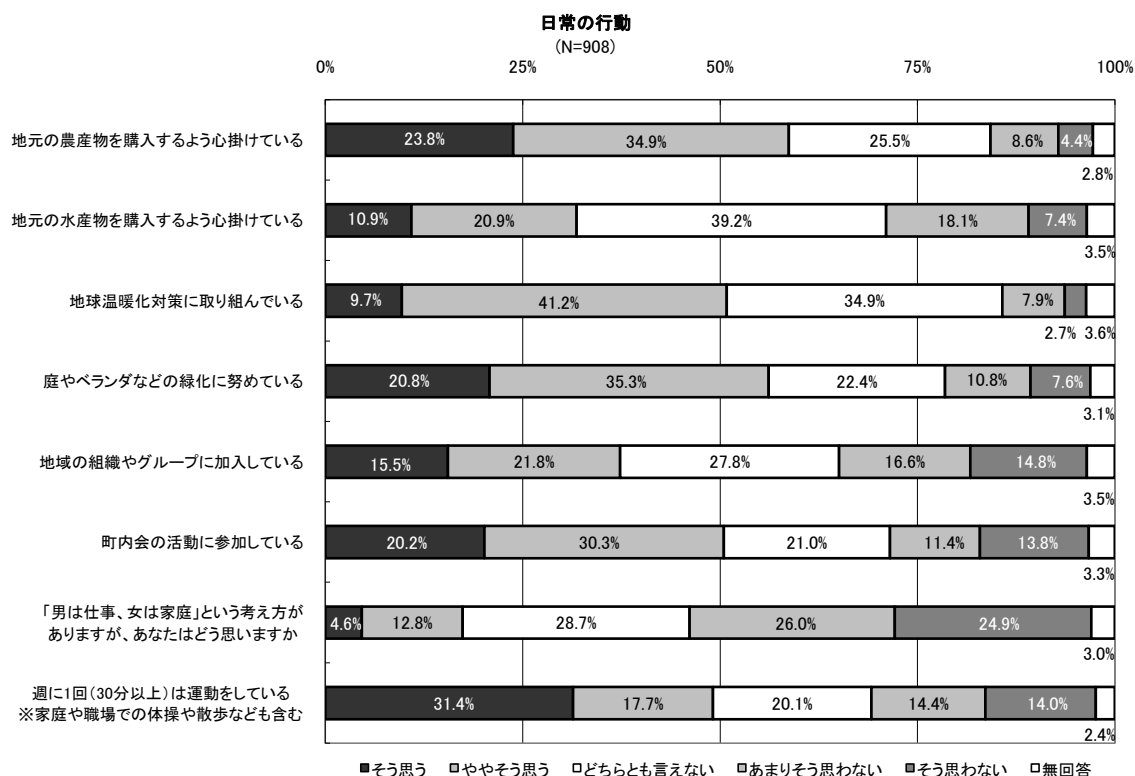
「庭やベランダなどの緑化に努めている」では、「ややそう思う」が最も多く 35.3%、次いで「どちらとも言えない」が 22.4%となっている。

「地域の組織やグループに加入している」では、「どちらとも言えない」が最も多く、27.8%、次いで「ややそう思う」が 21.8%となっている。

「町内会の活動に参加している」では、「ややそう思う」が最も多く 30.3%、次いで「どちらとも言えない」が 21.0%となっている。

『男は仕事、女は家庭』という考え方に賛成である」では、「どちらとも言えない」が最も多く 28.7%、次いで「そう思わない」が 26.0%となっている。

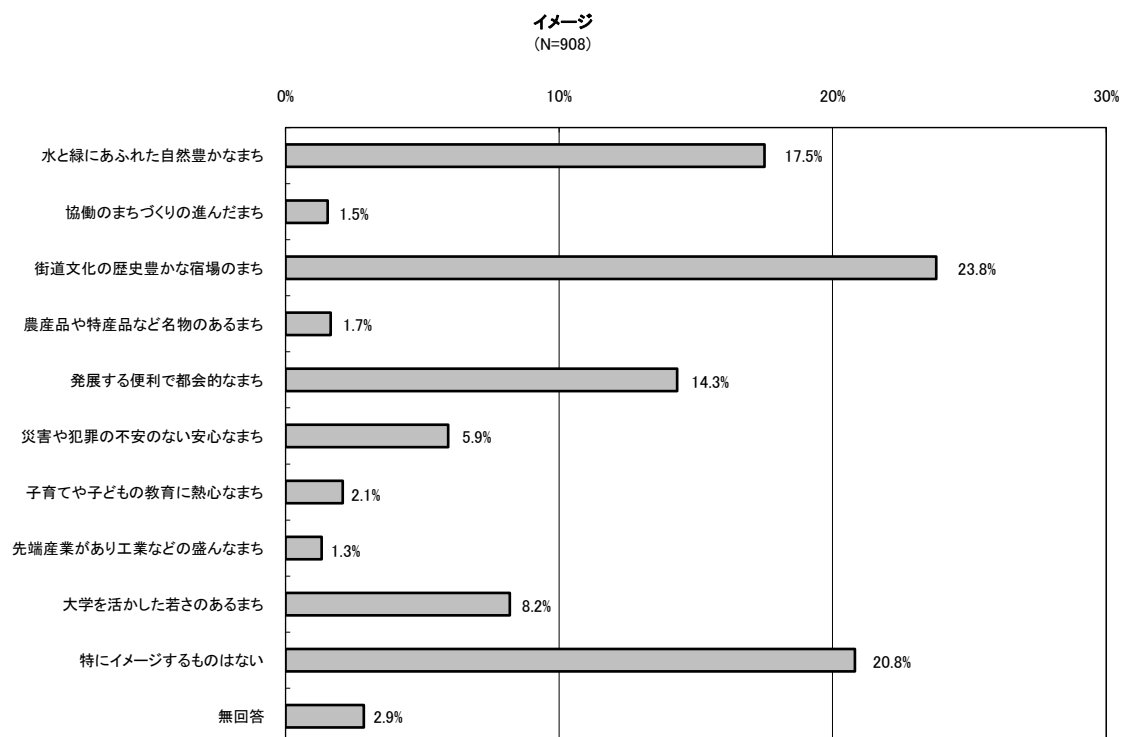
「週に1回(30分以上)は運動をしている」では、「そう思う」が最も多く 31.4%、次いで「どちらとも言えない」が 20.1%となっている。



(6) 草津市のイメージ

① 都市イメージ

草津市のイメージとして最も多かったのが、「街道文化の歴史豊かな宿場のまち」で 23.8%、次いで多かったのが、「特にイメージするものはない」で 20.8%、「水と緑にあふれた自然豊かなまち」が 17.5%となっている。



② 地域資源

市外の人に自慢したい地域資源として、最も多かったのが「烏丸半島など琵琶湖畔」で19.7%、次いで多かったのが「水生植物公園みずの森」で11.7%、「ハスの群生地」が11.0%となっている。

